

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスいぶき		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 22名	(回答者数)	18名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 19日		～ 2026年1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービス5療育を基に、いぶきの療育である、感覚統合運動(健康・生活、運動・感覚)グループワーク(言語・コミュニケーション、人間関係・社会性) SST(人間関係・社会性)学習支援(認知・行動) 基本的な生活習慣(健康・生活)療育の基本の柱として立ち上げ療育をしていること。	日々の活動内容の計画、および各療育についての目標を、5領域およびいぶきの療育方針に照らし合わせ起案し、職員で協議する事でいろいろな角度や見方で考え立案し実行している。療育のしつかりとした基本的な柱がある事で、より良い療育がおこなえている。	感覚統合運動 SST療育について個人個人が学び、培ったことを共有していく事で更に療育の質が向上していける様にしていく。
2	子ども達の特性をしり、適切な放課後等デイサービス計画の作成や、日々の療育プログラム作成をしていく上で、日々のケース記録、療育日誌を欠かさず記入する。保護者からの情報(医療的なデータも含む)等のインフォーマルなアセスメント、スクリーニング検査等のフォーマルなアセスメントを適切に用いおこなっている事。	子ども達の日々の療育の中で起きている事や気にかかる事など、記録やデータアセスメントなどから読み取り、行動だけではなく、要因や原因、その時の周りの様子(環境)支援の仕方、今後の支援の在り方などを分析し、予想を立て、実践し、振り返りを行っている。	職員がいろいろなもの見方、捉え方考え方をもち、いろいろなケースを自分なりに経験したり分析したりできる様に、多くの経験をする機会を設け、周りの職員も、バックアップしたり、援助する等しながら、一人ひとりの分析力がアップし、いろいろな目で見える事で、浮き彫り化していける様にしていく。
3	教材の作成、個別支援計画の中の支援を実施していくために必要な教材を、職員間で話し合い、各自がアンテナを広げ、自分なりに考えたり、WEB、書籍、いろいろな店舗などから探り、試行錯誤しながら見本を作ったり提示し必要な教材作りにも努め協議し用いている。	一つの支援に対して、いろいろ考えどんな教材が良いのか、適切なのか協議作成し、過去の教材を用いたり見直し又はリニューアルしながら用い、用いる意義についても確認し、用いた結果も話し合い質の向上を行っている。	他の事業所の教材の情報を共有しながら、自分たちの視点だけではなく、ほかの事業所(グループ内)の教材を見せていただき参考にしたり、さらに視野が広がる様にしていく事。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・新型コロナウイルス感染症の蔓延した年から、保護者を対象として交わりのイベントを見合わせてきた。外部講師を呼び研修会を行い、その後時間を設けてきたが、保護者としては、物足りないという思いも見受けられる	・新型コロナウイルス感染症の蔓延の前は、秋に芋煮会を行い、保護者同士、いぶき職員と保護者の交流の時をもってきた。新型コロナウイルスが5類に移行となり検討してきたが、不安などもあり思うように進まなかった。	・来年度は、保護者が参加できるイベントを研修会だけではなく、交流を中心としたプログラムを企画検討している。今後話し合いを進め、具現化していきたい。
2	・放課後児童クラブ児童館との交流や地域の他の子どもと活動する機会はあるかでは、検討事項として挙げられるがなかなか進展しない状況が見られていた。	・地域の子どもの食堂への参加などは行ってきた地域とのかかわりはもってきたが、放課後児童クラブとの情報の共有などは行ってきたが、交流となると、行政や放課後児童クラブとの交渉など、難しい事があり実践までは至らなかった。	・放課後等デイサービス自己評価表に上がられていることもあり、自立支援協議会放課後等デイサービス部門に議題として取り上げ、方向性を見出し、実践していける様にしていきたい。
3	・職員のスキルアップについて、障がいの理解、療育について、SST 感覚統合療法 グループワークなどについて、学ぶ機会を設け、事業所で作成した小冊子を用いた研修、外部講師を招いての研修を行ってきた。職務及び経験年数、意欲などにより個人差が見られ、組織全体としての知識の底上げさらなるスキルアップすることが望まれる。	・同じ教材を用い、障がいについて、療育について研修を行ってきたが、職員それぞれに差が見られ、どこをどのように優先的に学ぶのか具現化が難しくなってきたのが現状で、現状を分析していくつかのグループ分けを行い、時間を確保し行っていく事が、課題として挙げられる。	・職員の経験年数専門性、理解を基にグループ分けし、それに応じた学びを用意し、その学びを通し理解力を上げ、さらに協議する時を設けスキルアップし、療育現場で具現化できるように専門性を高める時を構築する。